

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>・生徒が主体的に他者と協働して取り組む活動のある授業づくりを実践し、学習習慣の定着を図る。</p> <p>・学校行事及び生徒会活動等を充実させ、生徒が主体的に取り組む姿勢を育てる。</p>	<p>①感染防止を継続しつつ「学び直し」の機会を保障する。ICTを活用して、生徒の「関心・意欲・態度」・「主体的に学習に取り組む態度」を引き出し、生徒の自発的発言を促し、「思考力・判断力・表現力」を伸長する。</p> <p>②コロナ禍でも安全に学校行事を行えるように考えるとともに、生徒の考えが反映できるように創意工夫して行事を行う。</p>	<p>①ICTを活用し、生徒の「関心・意欲・態度」・「主体的に学習に取り組む態度」・「思考力・判断力・表現力」を評価する方法を工夫する。授業にルーブリック等を活用するなど、授業の流れと評価方法を明らかにする。</p> <p>②生徒会の考えや希望を汲みとり、安全に学校行事を行えるよう模索して実施する。</p>	<p>①「関心・意欲・態度」・「主体的に学習に取り組む態度」において、伝達能力を伸ばす評価方法を工夫したか。「思考力・判断力・表現力」において、評価方法を工夫できたか。</p> <p>②生徒会の打ち合わせを密に行い、安全に学校行事を実施できたか。</p>	<p>①「生徒1人1台端末」の開始に伴い、従来以上にICT活用頻度は高まった。各教科、教科担当は評価方法を工夫し、同時に、その方法、授業の流れについて明らかにするようになった。</p> <p>②学校祭やスポーツ大会を安全に実施することができた。また、生徒会の意見を反映することができ、新しい形で実施することもできた。</p>	<p>①伝達能力を伸ばす評価方法の工夫については、教科・科目の特性を踏まえて検証する必要がある。「思考力・判断力・表現力」の評価方法における工夫も、各教科でさらに検証が必要である。</p> <p>②生徒会の意見を反映するために打ち合わせを密に実施したが、すべてを反映することはできなかった。生徒会の希望をすり合わせていく時間が今後必要である。</p>	<p>①ICTの活用が進んでいる様子がうかがえる。授業において生徒に目的・目標を示していることは評価できる。1人1台パソコンの活用により授業内容等の振り返りが可能となり、生徒自身が考えをまとめ表現するのに役立っていることがよく分かった。</p> <p>②生徒の意見を反映し、工夫して新しい取組をすることは評価できる。部活動においては活気のある活動を続けてほしい。特に音楽活動は人の気持ちを盛り上げる効果もあるので、立地条件を活かし伸び伸びと活動してほしい。</p>	<p>①「生徒1人1台端末」の開始に伴いICT活用の頻度が高まり、教科担当は評価方法も含めて工夫し、よりわかりやすい授業を行うことができたことは成果である。スライド提示やインターネット利用の授業を実施することで、ゆとりを持って授業中の生徒の活動を把握することができ、また、生徒に視覚情報を与えることで「関心・意欲」を引き出しやすくなった。</p> <p>・ICT活用においては、教科担当の技術的な素養及び科目の特性による差異が明確になってしまうことが課題である。</p> <p>②学校祭やスポーツ大会を安全に実施することができた。生徒会の意見も全てを反映することはできなかったが、いくつかの意見を反映し、新しい形で実施することもできた。また、音楽活動をはじめ、高揚感を抱かせる効果のある活動を増やせるようにしていきたい。</p>	<p>①Google Classroom等を活用して、生徒による授業評価などのアンケートだけでなく、授業課題の提示や回収を含め、通常の授業でもICTを活用した授業展開の工夫を継続する。そのために教科担当のスキルアップを図る。</p> <p>②生徒会の意見を反映するために打ち合わせを密にし、生徒会の希望をすり合わせていく時間が今後必要である。また、活動内容なども含めて継承していくものや新しいものを築いていけるようにする。</p>
2	生徒指導・支援	<p>・教職員間の共通理解のもと、生徒の規範意識の醸成を図るとともに、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握した支援を行う。</p> <p>・部活動の活性化を図り、生徒の自己肯定感を育みながら、部活動を通して責任感、コミュニケーション能力を伸ばす。</p>	<p>①生徒・保護者の状況に配慮しつつ、コミュニケーション能力・社会性を育てるとともに、規律と責任ある行動を実践し、他者と協働できる生徒を育成する。</p> <p>②部活動の活動実績と生徒会の地域連携の活動を増やし、積極的に発信することで、生徒の自己肯定感を育む。</p>	<p>①教育相談組織・学年団と連携し、生徒間のトラブルの未然防止に尽力する。SNSの適切な利用方法を繰り返し啓発する。</p> <p>②部活動の勧誘を積極的に行い、部活動や地域連携の活動実績等を広報と連携し学校のHPで発信する。</p>	<p>①いじめ案件について未然に防止できたか。「SNSの不適切な使用案件」について、年間10件以下となるよう指導を行えたか。</p> <p>②部活動や地域連携の活動実績等を広報と連携し学校のHPで発信することができたか。</p>	<p>①「いじめ」案件は0件であった。「SNSの不適切な使用」案件は6件であった。</p> <p>②学校のHPにいくつかの部活動が活動内容等を載せることはできたが、掲載数は少なかった。</p>	<p>①「いじめ」に繋がりにかぬない案件があったが、学年団、生徒指導Gが速やかに対応することによって早期に解決できた。SNSに飲酒・喫煙の画像をアップする事案が後を絶たない。粘り強く啓発していく。</p> <p>②広報Gとさらに連携を図るとともに、職員全体に周知していく。また、顧問総会などで周知するなど、活動実績を残せるようにしていく。</p>	<p>①SNS不適切利用の案件の増加を問題視し、生徒への講演や日頃の指導で対応されていることが分かった。また、様々な事情を抱えた個々の生徒に対して行われている情報交換会で共有され、粘り強い対応がなされている。</p> <p>②自己肯定感は大人になっても大切で、仕事に対する意欲にもつながる。広報誌等に自分が掲載されていることがうれしく自分の良さに気付くのではないかと。自己肯定感を高め生徒の良さを認める指導をお願いしたい。</p>	<p>①いじめ案件については、職員同士が常に情報を共有し、生徒とコミュニケーションをとる努力をしているため、いじめの萌芽の状態で沈静化できた。</p> <p>②学校のHPにいくつかの部活動が活動内容等を載せたものの、掲載数は少なかった。掲載された生徒が自己肯定感を高め、他の生徒がその生徒が頑張っていることを認めるなどの他者理解を深めるため、各部活動に掲載を促し、今後の教育活動につなげる。</p>	<p>①SNSに関しては、例年、合格者説明会での指導、SNS教室、啓発資料の配付などを行っている。今年度は修了式でも注意喚起を行った。今後とも全体、学年での集会で指導していく。</p> <p>②広報グループと更に連携を図るとともに、職員全体に広報活動を周知していく。また、顧問総会や学期ごとの括りで周知するなど、学校のHPに残せるようにしていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの社会性を養い進路実現を支援する。	・様々な教育活動を通して、進路実現へ向けて積極的に取り組めるよう、組織的・体系的なキャリア教育を展開する。	①各学年での進路に対する目標を設定して、組織的な働きかけを行う。 ②就職では学年団・SCC・SSW等と連携を取り、7月より面接練習ができる環境を整える。	①目標の周知、進路に対する意識付けができたか。 ②学校幹旋者を全員内定へ向け支援できたか。リモート面接についての対応ができたか。	①進路ガイダンスや診断テストを通して進路に対しての意識付けを行った。 ②7月より面接担当を決め練習が行える環境を整えた。就職試験のリモート対応で難しいものがあった。	①基礎力診断テストの結果を進路ガイダンスに結び付け、進路指導を行っていく。 ②就職希望者の1次応募での応募率や内定率を向上させ、全員内定に向けた活発な就職支援を計画的に行う。	・SCCとの連携がうまく機能している。就職希望者に対する内定率が100%に近いことは評価できる。 ・家庭の状況に立ち入ることは難しいが、家庭を巻き込んで年金や保障に目を向けさせ続け、特に、試験に不合格だったときの切り返しを指導してほしい。	・卒業生の進路活動としては8割以上の生徒が進路実現を果たした。校内外と連携し支援することができた。 ・希望の進路がある生徒に対しては支援できたが、フリーター希望などの生徒数は少ない。早期からのより具体的なキャリア教育の実施が必要である。	・早期から社会に触れ自身の進路を考えさせるために、学期末などを利用し1、2年生から校外学習などで会社見学などを計画していく。 ・引き続き進路データブックなどを通じて、3年間のスケジュールを細かに提示していく。
4	地域等との協働	・家庭や地域と学校間の連携・協働を充実し、信頼される学校づくりを推進する。	・地域、中学生、保護者に対して情報発信を積極的に行う。	①HPの生徒活動内容を増やし、中学生に伝わりやすいようHPの内容や構成を工夫し、公式ツイッターも使い分けて情報発信する。 ②学校説明会の宣伝や連絡手段としてHPを効果的に使っていく。	①HP、公式ツイッターの更新回数を増やし、生徒の様子を伝える広報活動ができたか。 ②学校説明会の宣伝や連絡手段としてHPを活用できたか。	①部活動の内容をHPで発信することができた。公式ツイッターで生徒活動内容を発信することができた。 ②学校説明会や公私合同説明会の申し込みや連絡手段としてHPを活用できた。	①HPの生徒活動内容や公式ツイッターの更新回数が少ない。今後は、特に閲覧数が増える2学期に注目して、学校行事や日頃の活動の情報発信をしていく。 ②学校説明会の様子などもHPや公式ツイッターで情報発信していく。	・中学生が各学校の情報を得るためにHPを活用している。2学期に集中して情報を発信していきたい。私立高校は発信力が高く、中学生がその情報を参考にしていることがよく分かったので、県立高校としても、今後も細かな情報発信をお願いしたい。	生徒活動の内容をHPと公式ツイッターを使い分けて情報発信することができたが、両方とも更新回数が少ない。HPの内容を充実させ、公式ツイッターを活用し、日頃の活動の情報をさらに発信していく必要がある。	グループ内でHPや公式ツイッターの操作ができる担当を増やし、2学期を意識して、学校行事や日頃の活動の情報発信をしていく。
5	学校管理 学校運営	・安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事の未然防止に対する自覚を促す取組を組織的・継続的に行う。 ・教員が心のゆとりをもって生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事を未然に防ぐ自覚を持つための取組を、定期的に行う。 ②長時間勤務を是正する。	①定期的な研修の中で、事故・不祥事が起こる場を具体的に自分のこととして考える。また、各グループの職掌の中で事故が起こりやすい場を全体で共有する。 ②月1回ノー残業デーを設定し月間行事予定に明示するとともに、休日出勤等勤務時間外労働の状態を把握し、産業医による面談につなげる。	①事故・不祥事研修を定期的に行うことができたか。その中で事故が起こる場を想像し事故防止に役立てることができたか。 ②ノー残業デーを何回実施できたか。また長時間勤務者に対して、産業医による面談が実施できたか。	①定期的に研修を実施し、それぞれの時期で具体的な事例に基づき事故が起こりやすい場を共有できた。 ②ノー残業デーを月1回行事予定に明示したが、保護者対応や生徒対応のため職場全体でのノー残業デー完全実施には至らなかった。長時間勤務者に対して産業医による面談を実施した。	①今後も、定期的にその時期に必要なと思われる事故防止研修を実施する。 ②業務終了時間の呼びかけを継続する。長時間勤務者には産業医による面談を実施する。また、校務分掌業務に関して文書による引継ぎを行い、業務の効率化を進める。	・今後も様々な研修を通して、事故不祥事防止に努めていただきたい。 ・教職員においても3・6協定が結ばれていることが分かった。長時間労働は憂慮することなので、引き続き対応をお願いしたい。	①定期的な研修により、それぞれの時期で具体的に事故が起こりやすい場を共有したことで、事故・不祥事防止につながったことが成果として挙げられる。今後も、その時々で必要と思われる研修を継続して実施していくことが課題である。 ②月1回のノー残業デーを月間行事予定に明示し、日々退庁を促す声掛けを管理職より行った。一方で、長時間勤務者を産業医への面談に繋げた。業務分担へのサポートと業務内容によってはスケジュール管理が必要である。	①必要と思われたときに、随時研修を行い、継続して事故・不祥事の未然防止に努める。職員の当事者意識を維持するため各グループ主体の研修を継続する。 ②ノー残業デーにおいて定時退庁しない職員は、業務内容と終了時間を管理職に予め報告し、各自の残業内容を可視化することで長時間勤務に対する意識改革を行う。また、各グループや学年で業務進行状況を週単位で確認するとともに、業務を複数体制であるようにする。